

会員数 59名 出席者48名・欠席者11名・免除会員5名
欠席者 有家・麻田・馬場・大山・和泉享・松山・中野昌・曾川・菅-会員

前々回出席率 82.8% (9/17)

MARUGAME ROTARY CLUB WEEKLY

会 長 岡田 将一郎
幹 事 陶国 栄帰
会報委員長 福田 洋子

お知らせ

- ∴ 10月のプログラム
- 1 (No.1)-ガバナー公式訪問
 - 8 (No.2)-会員卓話
 - 15 (No.3)-クラブフォーラム
 - 22 (No.4)-客話
 - 29 (No.5)-職場例会

- ∴ 他RC例会変更
- 丸亀東 10/13 職場例会
 - 10/20 夜間例会
 - 善通寺 10/21→10/19お別れ会
 - 10/28→10/21職場例会

- ∴ ニコニコBOX;
- 誕生日
塩田君 眞鍋君
 - 結婚月
福田君 眞鍋君
 - Gをお迎えて
横田君 夏見君 秋山憲夫君
山内光君 谷本君 白井G補佐
 - Gをお迎えて記念撮影ができて
高岡君
 - 会社にとっていいところがありました
福田君
 - 篠原Gより

<ニコニコ会計累積/¥124,000>

- ∴ がんばるBOX;
- なんとなく
齋賀君
 - 篠原Gをお迎えて
岡田君 陶国君 川原君
 - 一年間何も進歩がありません
でした。頑張ります！

<がんばる会計累積/¥148,000>

■会長挨拶

皆さん、こんにちは。今日はガバナーを迎えての公式訪問例会です。お客様のご紹介をいたします。篠原 徹ガバナー(高松東RC)、白井 聡ガバナー補佐(善通寺RC)、そして高松東RC会長の北岡 省三様です。本日は三人の方にお越しいただいています。後ほど、篠原ガバナーには客話を頂きたいと思っております。よろしくお願い申し上げます。さて、先週の土曜日は米山記念奨学委員会の林委員長と共に高松で行われた米山記念奨学会・協議会に参加してきました。いつもは行われていますが、今回は密を避けるということで、懇親会のないセミナーでした。

今回の米山の協議会に参加して分かったことが二つあります。一つは米山記念奨学会は日本における民間機関最大の奨学財団と言うことです。イメージ的に「もっと大きいところはいくつもあるのでは」と思っていたのですが、米山記念奨学会が日本では最大のものでした。我々も、その一翼を担っているということで誇らしく思います。もう一つは、この米山記念奨学会は、日本のロータリアンが支援をしていますが、これは日本独自の制度であり、当初国際ロータリー(RI)は米山記念奨学会を認めていませんでしたが、2016年には正式に認められ、米山奨学生はRIの学友となりました。いまは、国際大会においても米山記念奨学会のブースがあります。ロータリーの活動も多岐に渡っていますので、地区の協議会に参加して分かることが色々あります。皆さんも、ぜひ積極的に参加してロータリーの知識を深めていただきたいと思います。それでは、今日は第一例会ですので会員慶祝にうつりたいと思います。

■例会事業;ガバナー公式訪問;篠原 徹ガバナーの卓話(要旨)

篠原 徹ガバナー(高松東RC)
白井 聡ガバナー補佐(善通寺RC)
北岡 省三 高松東RC会長

丸亀ロータリークラブは57年の歴史があるということで、多くのクラブで会員数が減少しているなか、丸亀ロータリークラブは60名前後で安定しており、女性の会員もいてバランスのとれたいいクラブであると見受けられます。また、お城まつり、善行表彰事業、未来への手紙、ロータリー杯ミニバスケットボール大会への協力など、多方面において地域社会のために奉仕活動をされているということでこれからも続けて頂ければと思います。

岡田会長から、夜間例会について他クラブではどのように行っているのかについて質問を受けました。統一見解としては、今年いっぱい大きな大会は自粛するということになっています。そのような状況の中で、夜間例会については各クラブで判断をしていただくこととなります。

ここで今後のコロナはどうなるのかについて医師の立場から少しお話をさせていただきますと、まだまだ世界は感染が増えている状況であります。日本はいま第二波が起こっています。今後はどうなるかは誰にもわかりませんが、唯一参考になるのはスペイン風邪で、100年前ですが、5億人が感染して、5000万人がなくなり、人類が全滅かと思われましたが、2年間で収まりました。このときは、多くの人が免疫をもったことにより自然に収束しました。今回のコロナウイルスについては、秋以降にはワクチンが完成するので、状況は少しずつよくなるであろうと考えています。

(裏へ続く)



2020.10.1
Vol.58
№12
(2806)

さて、ロータリーの話ですが、今年のRIの会長はホルガー・クラーク氏で、「Rotary Opens Opportunities」というテーマです。「opportunity」という英語は、「機会」という意味ですが、目的とか手段とか目標がはっきりしたものに対する「機会」であります。ロータリーの目標は奉仕という大きな目的があります。丸亀ロータリークラブの岡田会長の方針は「You are our family」ということで、社会全体がfamilyであるとの考えで、すべてオープンにしてより一層みなさんと仲良くして助け合っていこうということです。これはRIのテーマと意味するところは同じであると思いますが今年は、もう一度ロータリーの目的を見つめなおして奉仕の機会をつくっていこうということだと思います。

そしてクラーク氏は、今のロータリーは悪くはないが、将来に対しては危惧しているとも仰っています。今後ロータリーが生き残っていくためには今こそ変革の時期であるとのこと。2016年にロータリーの規則が変わり、入会の規定や例会の運営について大きな変更がありました。さらに2019年の変更では、Eクラブや衛星クラブなど、多様性に富んだものが認められるようになりました。これは時代の流れであり、ロータリアンの人口が減ってきたことで、より多くの人がロータリーに参加できるように規定が変更されてきたものであると思います。これが世界の流れであり、日本のロータリークラブもある程度変化に対応していく必要があると思います。

このようにロータリーの在り方は時代とともに変化しつつありますが、根本的なもの、四つのテストや五つの中核的価値観などの基本理念については変わらないということは押さえておかなければなりません。

というわけで、表面的な流れの変化と変わらないものを押さえておけば、今のままやっていただいて、だけど少し大きい流れも理解して、変えるべきところがあれば変えていけばいかがでしょうか。